

新編

武家雛形記

全

特別  
47  
5071







新編武家雜形序

夫工之為道建都邑立室家以使兆民安  
居以待於風雨其責不為不重籍蓋天下  
之器物皆無不出先聖之作焉古者包犧  
氏仰觀象於天俯觀法於地近取遠取始  
作八卦通神明之德類萬物之情而後取  
諸大壯以制作宮室之屬由後世所以推  
本之而業焉也大抵工匠之道以曲尺準  
繩定規模而後以刀鋸椎鑿治曲直定規

佐山文庫

重致山

橫山家藏

丁未



模者體而本也治曲直者用而末也此二者猶車兩輪並行而道在其中矣豈可缺一矣倭朝曾任業輩雖多干世至今秘之藏之書以不行世矣宜哉昧者彌昧愚者彌愚間有授受者亦有真有偽豈可不嘆乎雖予不敏而不忍墜箕裘之業竊會諸家之說而折其衷善者取之惡者捨之以既著宮形圖一卷今又選書一卷名言武家雛形庶幾爲初學者之楷梯云

アゲツチモンノコト  
上土門之事

ム子カド  
棟門之事

ヤクイ  
藥醫門之事

ムカイカラ  
向唐門之事

ヒラ  
平唐門之事

ムカイヘイヂウ  
向屏重門之事



平<sup>ヒラ</sup>屏<sup>ヘイ</sup>重<sup>ヂウ</sup>門<sup>モン</sup>之<sup>ノ</sup>事

舞<sup>ブ</sup>臺<sup>タイ</sup>之<sup>ノ</sup>事

鞠<sup>マリ</sup>懸<sup>ガリ</sup>之<sup>ノ</sup>事

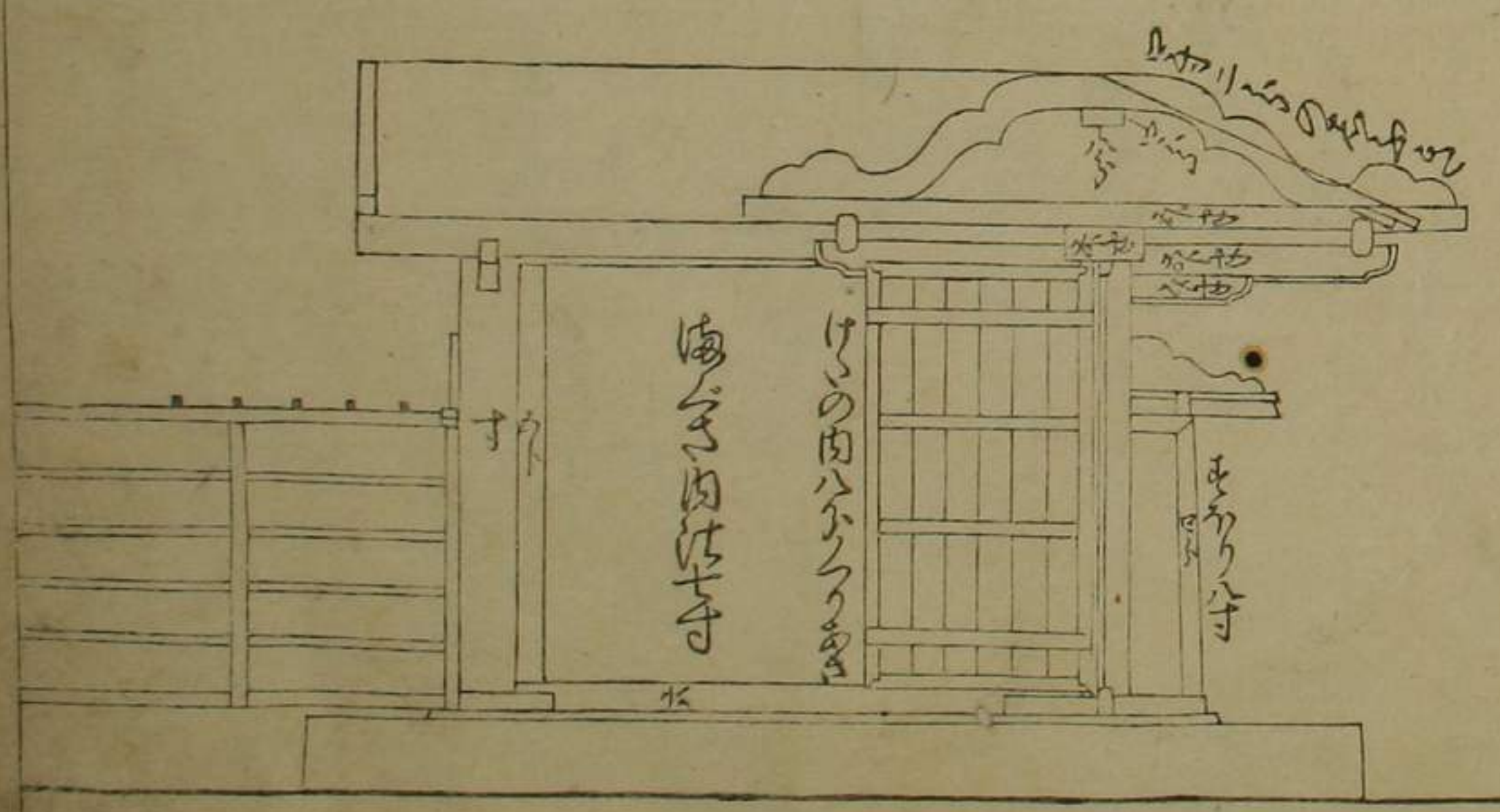
廣<sup>ヒロ</sup>間<sup>ミ</sup>之<sup>ノ</sup>事

納<sup>ナン</sup>戸<sup>ド</sup>構<sup>ガエ</sup>之<sup>ノ</sup>事

廐<sup>ムコヤ</sup>之<sup>ノ</sup>事



上土門

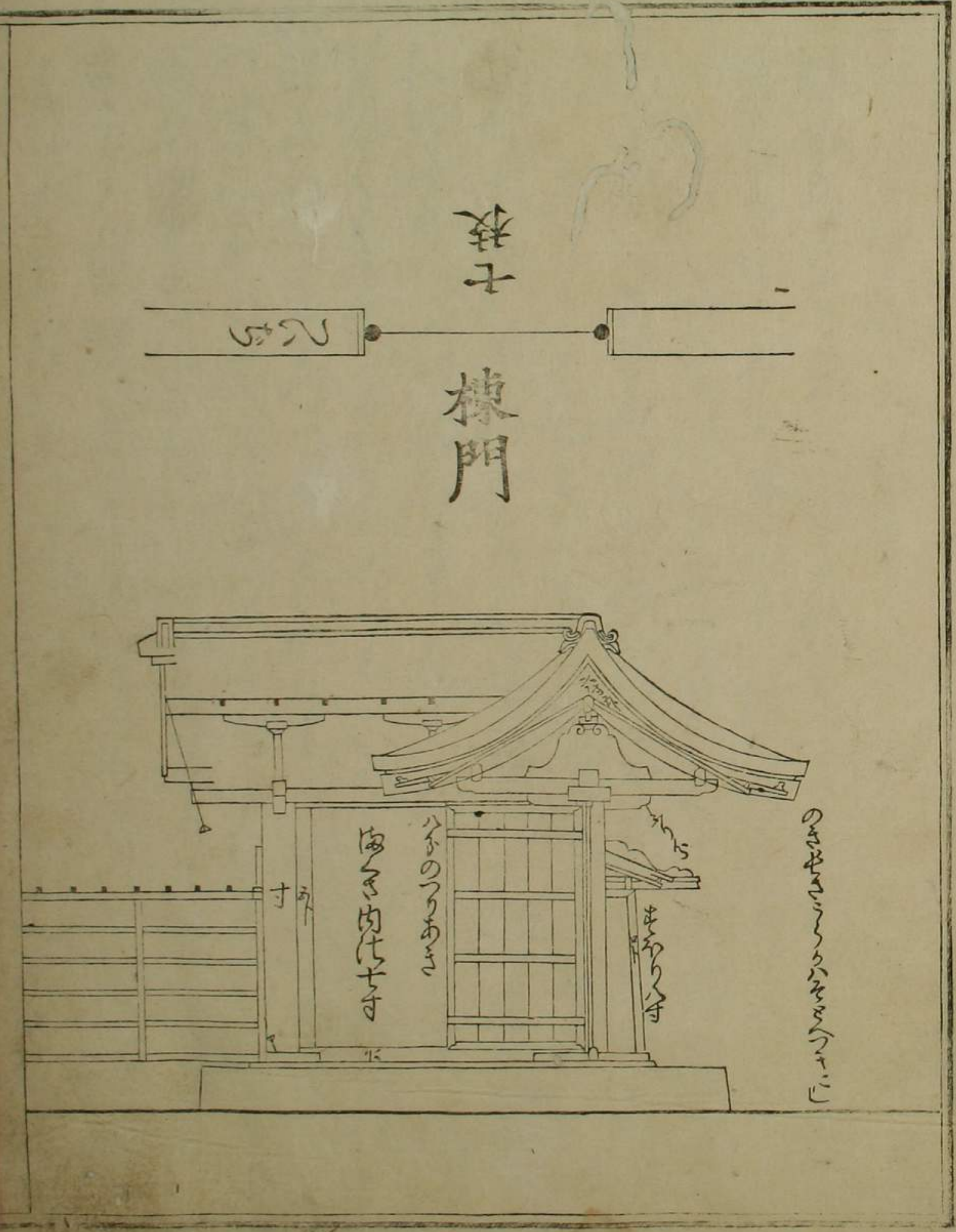








見りて。海られふとて。いさだむらう。海られ  
 あつさ。いさだむらう。いさだむらう。  
 一は。いさだのたかき。あぢ。いさだむらう。いさだむらう。  
 を。いさだむらう。いさだむらう。いさだむらう。いさだむらう。

















やんじうのしり

一 指のちさき守りあふうぞくあつふんをいしてさふ。せ  
さ急指れふとさふ。な指事か官方。めんハナめん。ひ  
くぬきれんぐハピく指れめんうち。あつふんぬ  
きれんぐもめん

一 ちうけんらりののせいぬ。指れんぐにいてさふ。ちを  
指るとつにさうりてめんけいれせいハ。指のちと事  
めん。ちをちうけんらりの。ちをちと。かあされせい  
ぬ。指れんぐにいてさふ。めんハ。たけらうのめが  
ぶき。めんちれつうと。むひのけいれ。なるまき  
とあふあり

一 けいれいどちちハ。さひくをひらきて。けいれ  
そと。とあふあり。めうけんらりれ。せさふ。かあさ  
のそと。ちうけんらりの。ちをちと。ちうけいれ



















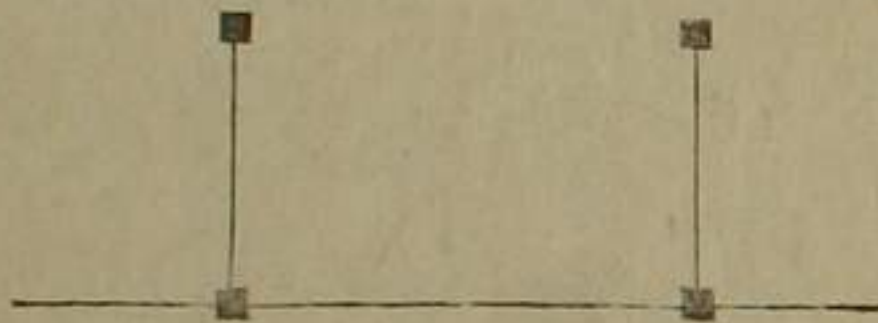
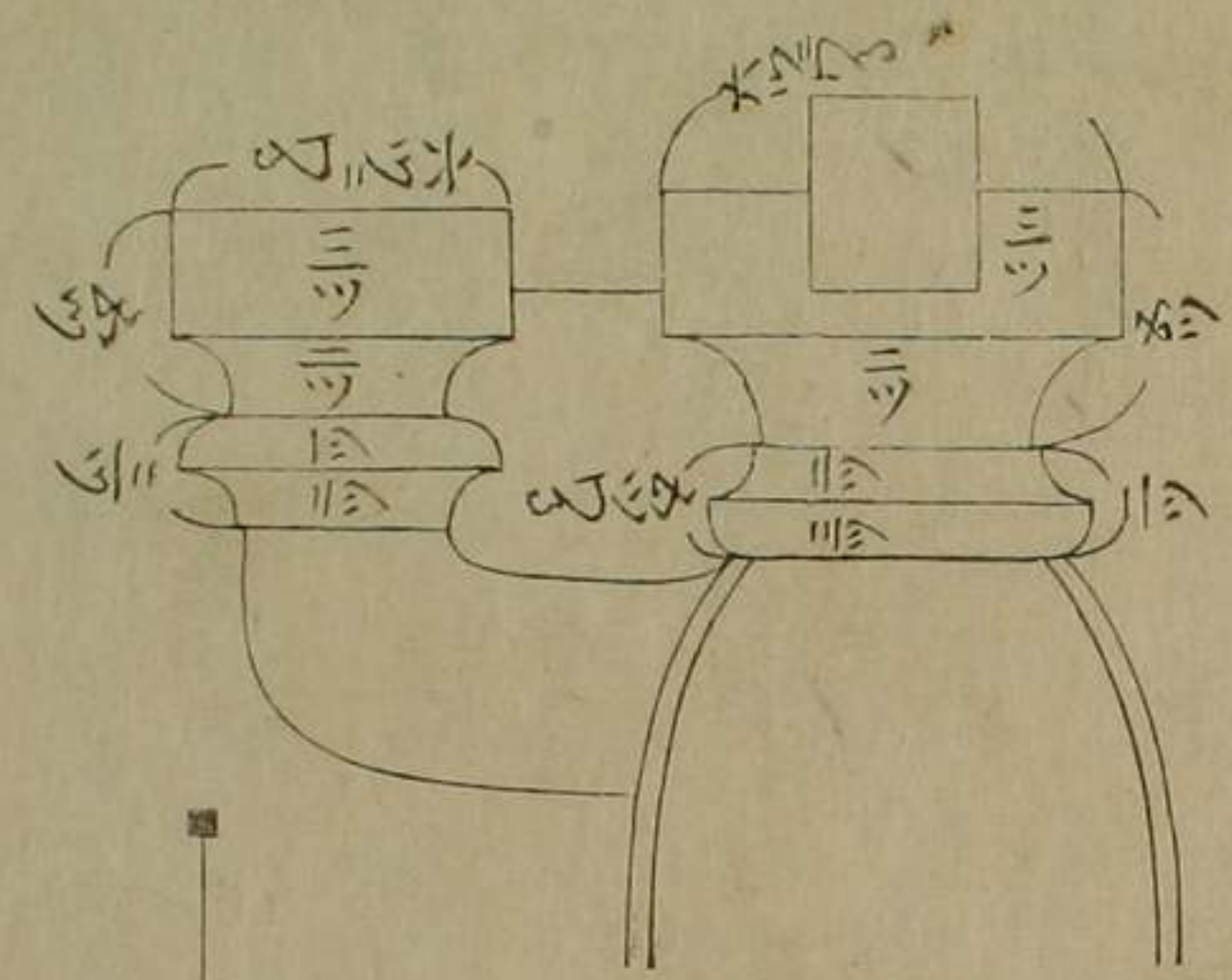
ひらうくわのま

一 指のちさくろにすすめぞく。まろ指をり。ちう  
ほをりのせいめふ。ちをろをろふ。あうほ  
をりのせいめふ。ちをちうほをるまをまろ  
こと。あうほをりのまろ。あうほをちうほを  
ちうほをり。れをちうほをり。あうほをちうほ  
をりのまろ。ちうほをり。

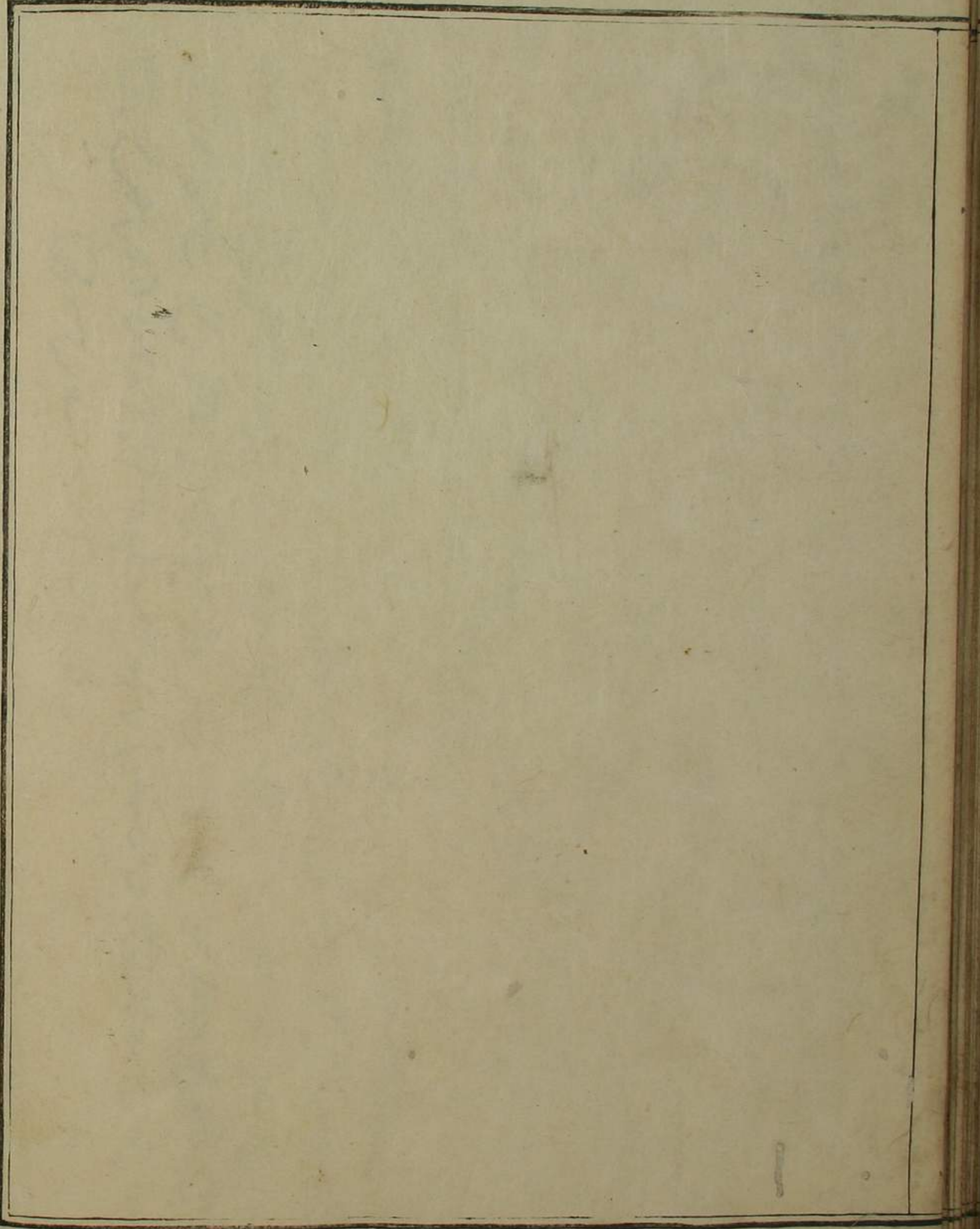
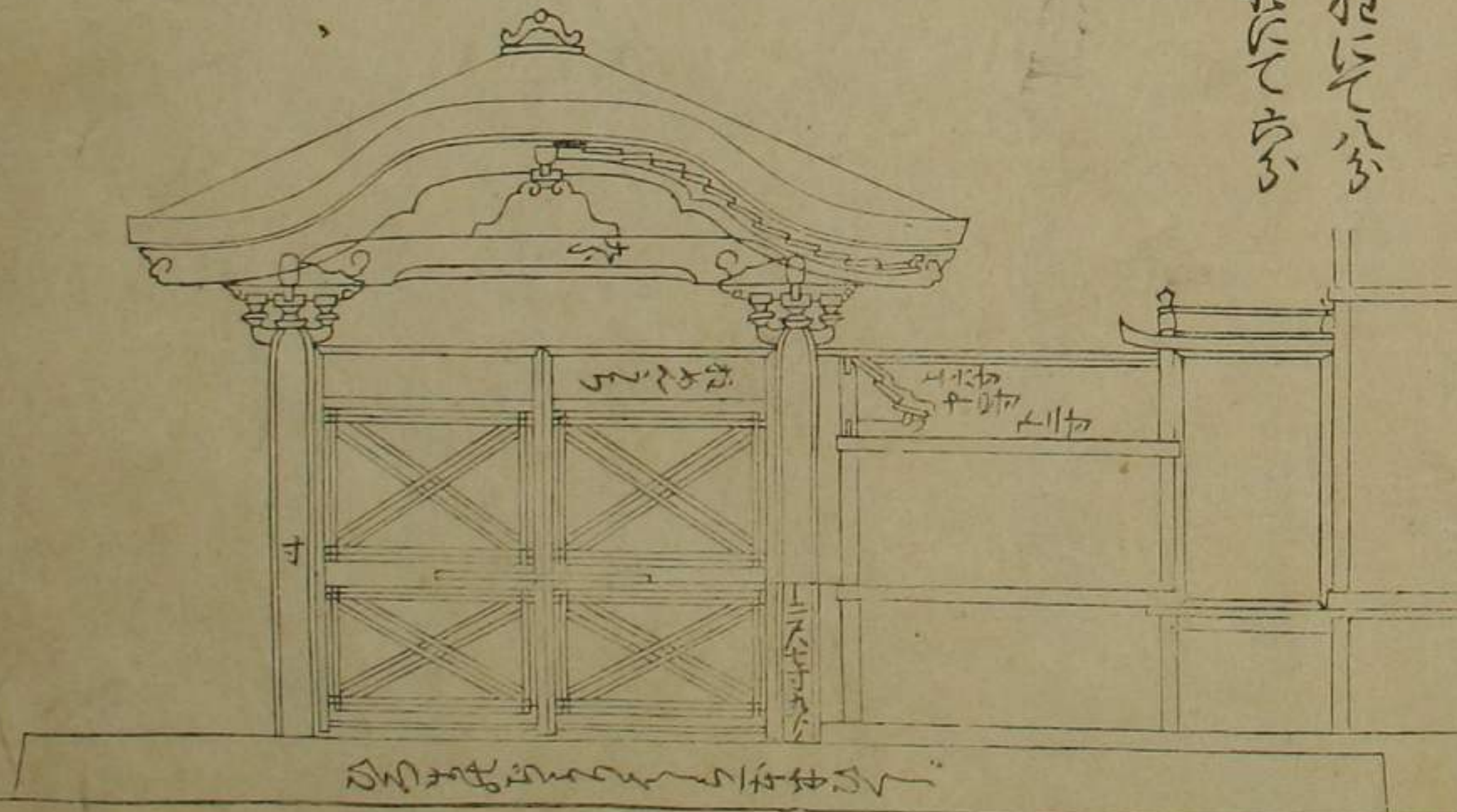
一 ちうほをり。せいめふ。ちをちうほをり。れめ  
一 ちうほをり。せいめふ。ちをちうほをり。れめ  
たれせい。ちをちうほをり。れめ。ちをちうほ  
け。ちうほをり。せいめふ。ちをちうほをり。れめ  
のちうほをり。せいめふ。ちをちうほをり。れめ  
ちうほをり。せいめふ。ちをちうほをり。れめ  
もろのまろ。



向屏重門



大斗方を柱にて分  
満斗方を柱にて分





むかいぬいぢうりのし

一 植あかまきこころ。植のちきさるにすうぞくぞて  
をくらのちきさる。あんはすあて

一 わきれる。どびうきひくきて。植うちりのり  
急むしこむをり

一 大斗れ。ちき植ひて。はふ。もうま斗れ。ちき植ひて  
さふ。ひらき。れふと。き。植う。つ。日。り。せい。は。こ。ま。ま。

一 けい。の。せい。ち。ち。り。を。ま。ま。ま。う。う。う。せい。ぬ。お  
ち。ま。れ。ふ。と。ま。う。い。急。た。れ。ま。ま。に。て。は。ま。さ。ぶ

の。ま。に。た。ま。ま。ま。ま。た。ま。ま。の。ふ。ま。ま。植。あ。つ。た  
目。り。て。あ。ん。せい。は。こ。ま。ま。う。う。う。ま。ま。の。け。り

や。う。は。な。う。う。も。ん。の。し。く  
一 た。う。ま。ま。ひ。く。れ。植。ほ。う。り。の。う。わ。ま。ま。ひ

ら。ま。た。け。の。あ。う。う。ま。ま。れ。り。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま











ひらぬいぢうりのう

一 根のちき。ちらにしてき守つてふそく。あつさひんぐに  
てんを。めんハナぬえ

一 とひらう海らりのふとき。根うらののちき。はるに日り  
て。めんどう海らりのふとき。はるに日り。だむる

あつさひんぐ海られんぐに。はしてんを。ふれ。ゆげ  
うらむれ。ふらむ。うらむ。のらむ。はしてんを。

うらむ。めんどう海らりのふとき。はるに日り。はるに日り。  
ふれ。ゆげ。うらむ。のらむ。はしてんを。ふれ。ゆげ。

一 ひらぬいぢうりのう。のたうき。きんぐ。ハナぬえ。ひらぬいぢうりのう。  
はるに日り。はるに日り。はるに日り。はるに日り。

肉は







あたりのし

一 柱のあつてもう半程ふしつとあつた。たつた。ひら  
るる。あつてもう半程ふしつとあつた。たつた。ひら  
あつた。たつた。ひらるる。あつてもう半程ふしつとあつた。  
あつた。たつた。ひらるる。あつてもう半程ふしつとあつた。  
あつた。たつた。ひらるる。あつてもう半程ふしつとあつた。

大車。あつてもう半程ふしつとあつた。たつた。ひら  
るる。あつてもう半程ふしつとあつた。たつた。ひら  
あつた。たつた。ひらるる。あつてもう半程ふしつとあつた。  
あつた。たつた。ひらるる。あつてもう半程ふしつとあつた。  
あつた。たつた。ひらるる。あつてもう半程ふしつとあつた。



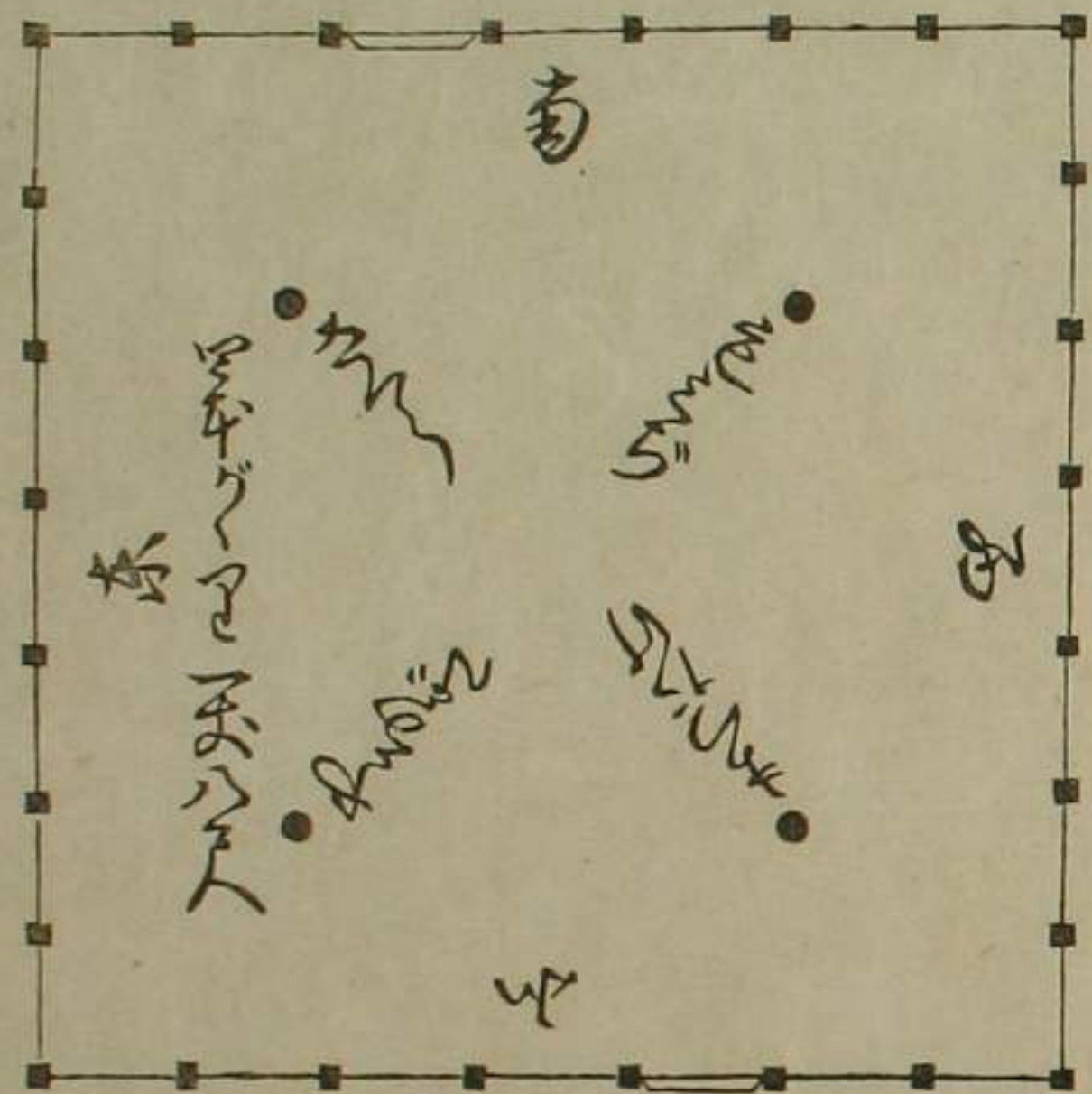








# 鞠懸



そのひらきこゝたふたを七るはつあり

やまき一ふたふた

		サシテ	シウテ			
		子一かく 色の十二か				
			子一かく とれ七か	かんのり かんのす		

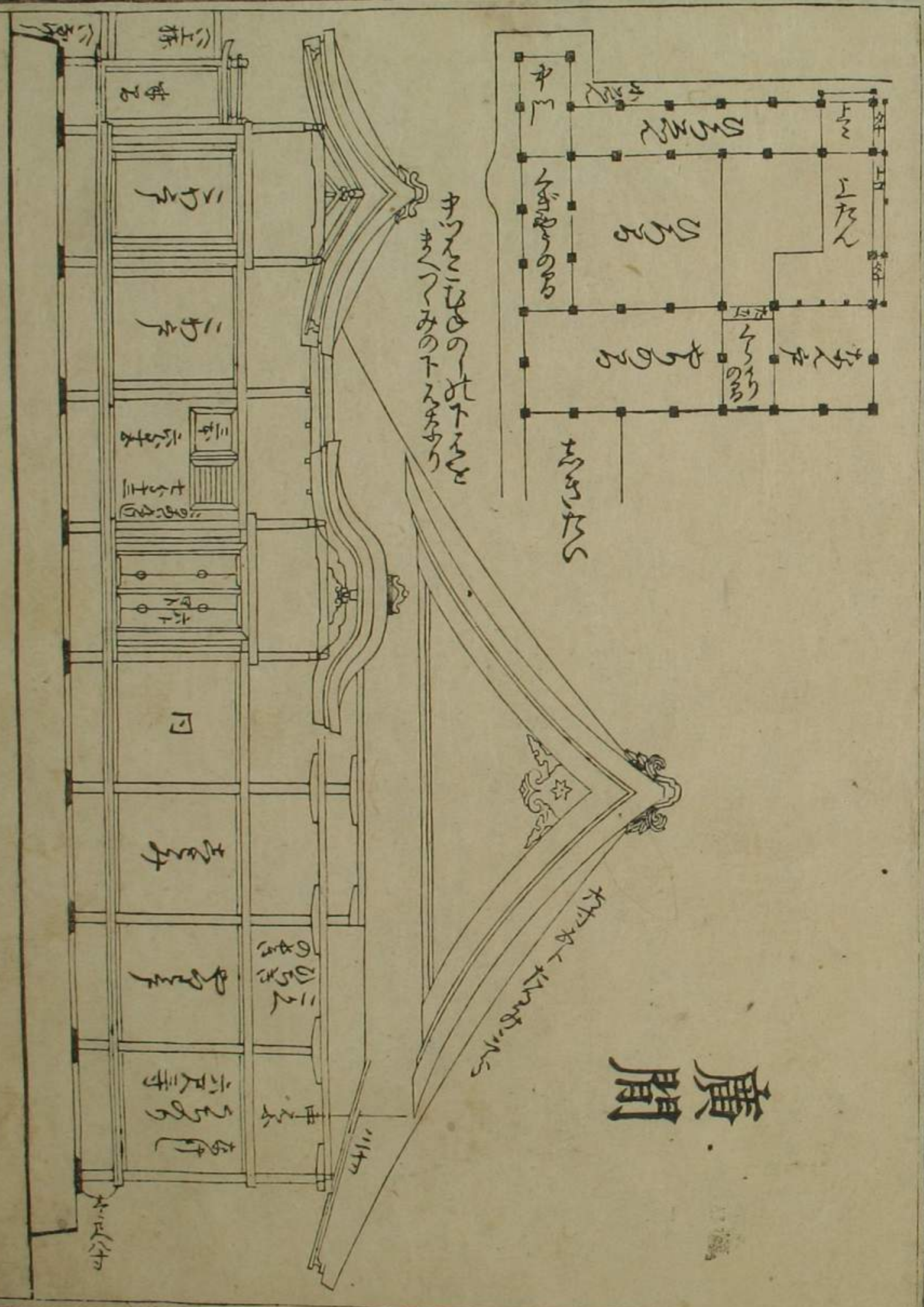






高だくちりより 二丈あがりてより。高きより  
 めつたり。又ハ。二丈あがりてより。高きより  
 ちりたり

廣間





























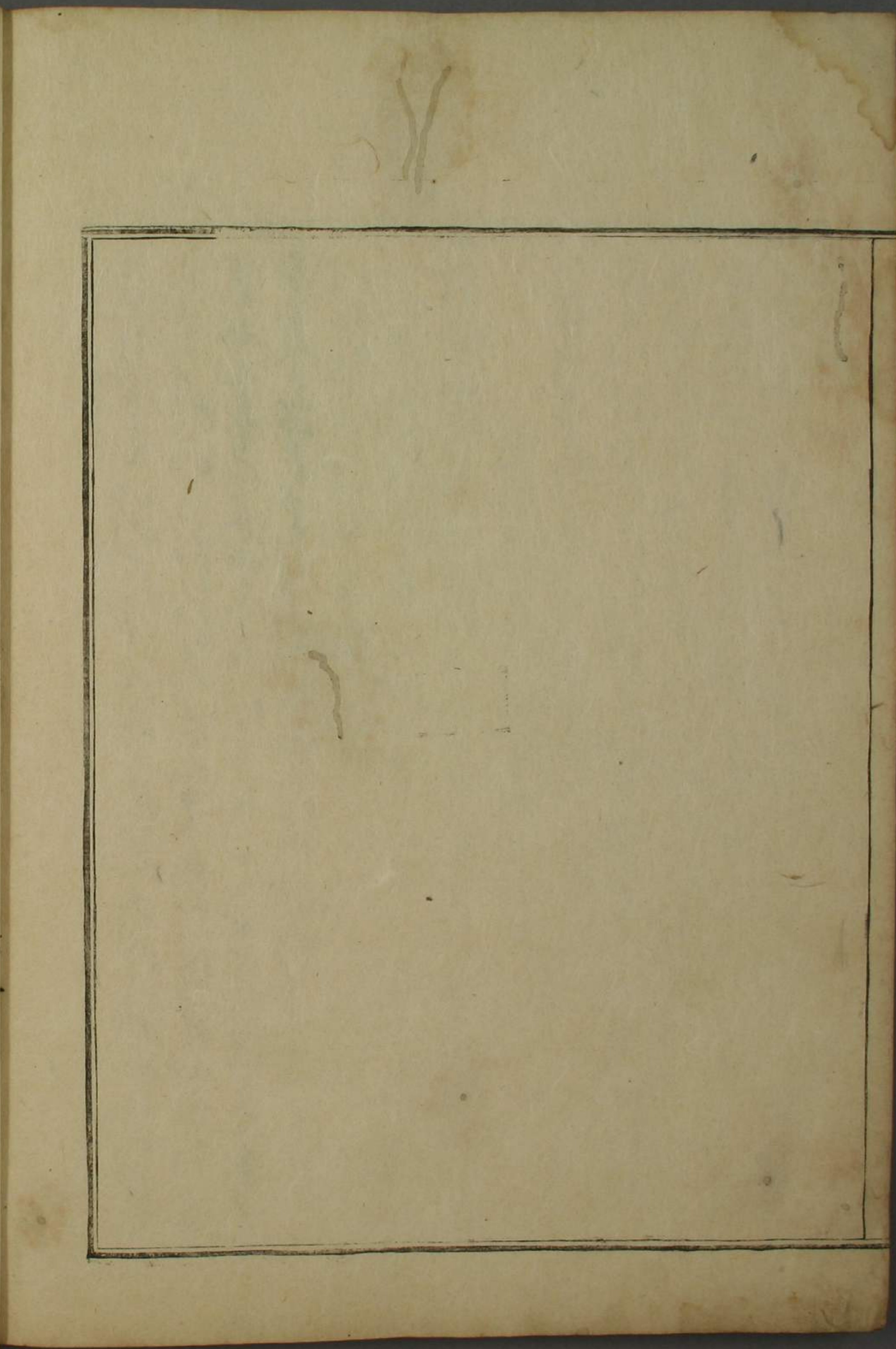
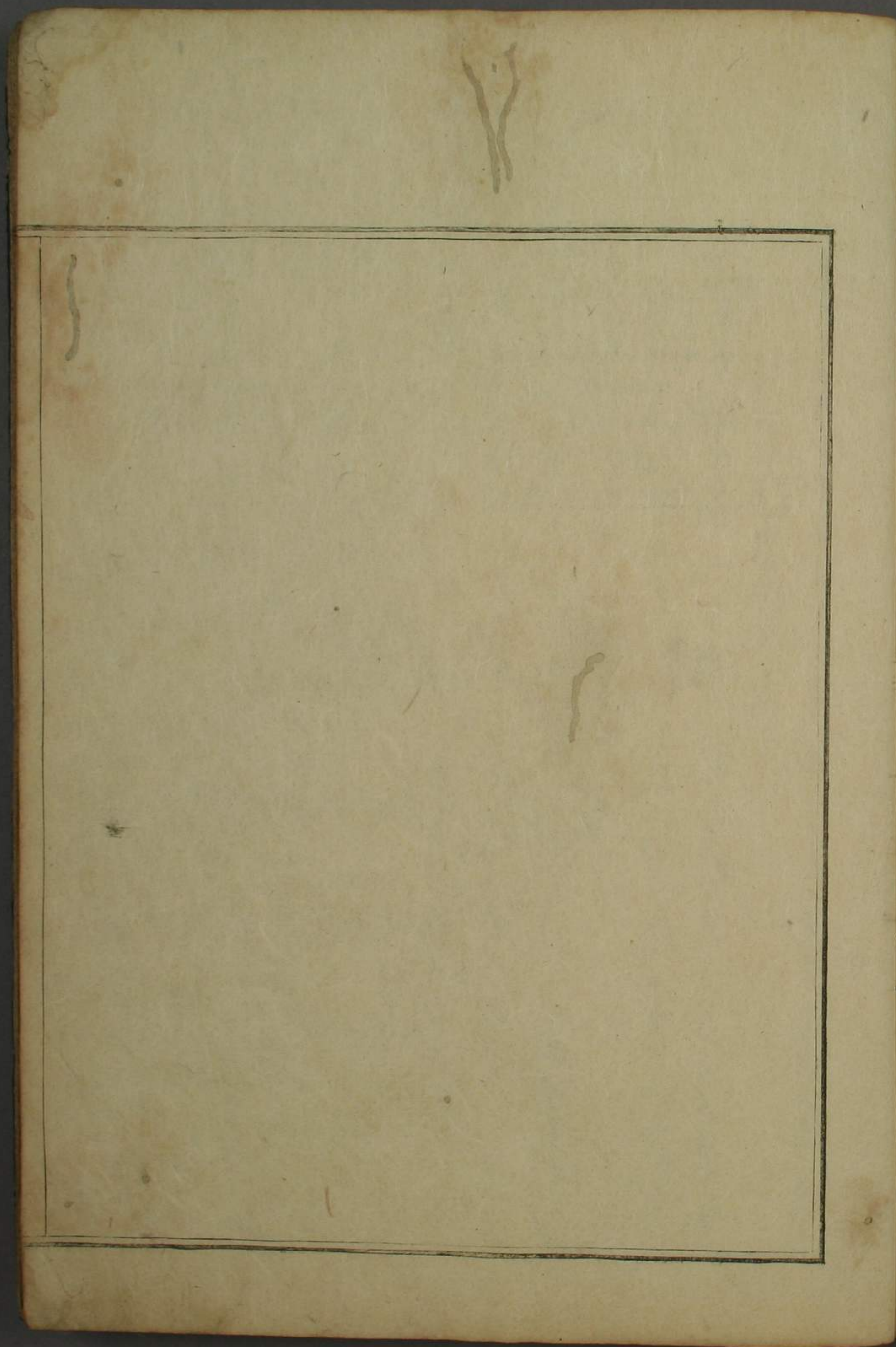
ひいたるかこいしくしとあり  
一トだんののなんぞわをれたたぢれりこのたまさ  
かどだんうもつられらむとをなぞたささなり  
とせりたなまかもしれあいのふすすまお。たなれ  
らごいひだりれあうとらなり。何もあさり  
ハ右たなれしとあり

ほけきといのり

一程のあともハち程あさうらちれりしたたまさ  
ハすほけきといのらさなりいこのたまさ  
いしれあはれしとあり  
一とせしけのたまさうらりのなげしれ  
らむとをなぞたささなり。中  
かもいのたまさだりわれりともちれりこの  
らむとをなぞたささなりしとあり

なり。かもいのたけはささのんのかめんうら  
かぢれりしれひろま。まあれ程あさうらよ  
甲あんまうのそれよりこぢれしとあり  
まあ人三すよりたさだいひろ



















今所述武家雛形之書者先師曾  
雕梓雖行于世而既依有采薪之  
憂不遑再考錄於是爲不足於其  
意一日遺言予謂來日必改正此  
以遂願也故雖僭踰不忍錯命而  
今因先師所記而重附錄焉

皆明曆元<sup>し</sup>未<sup>未</sup>年季秋上漸



武彊豐嶋郡江府



瀬河政重撰



表之町

化大心



